

院内勉強会を開催しました

～ 痙縮に対するボトックス筋注について ～

9月2日(水)、グラクソ・スミスクライン株式会社の松木 大輔さんを講師にお迎えし、「痙縮に対するボトックス筋注」について院内勉強会を行いました。

痙縮とは、脳卒中や脊髄損傷などの疾患によって筋肉が過度に緊張し、手足が動かしにくくなったり、日常生活に支障をきたしたりする状態です。

ボトックス筋注は、筋肉の過剰な緊張を和らげることで、関節の動かしやすさを改善し、日常生活動作の向上や介助の負担軽減などが期待される治療です。一般的には、効果の持続に合わせて3か月ごとに治療を行います。

当院では、現在のところボトックス筋注の実績はありませんが、大垣院長は痙性斜頸・上肢痙縮・下肢痙縮に対するボトックス筋注の資格を有しており、臨床での使用経験もあります。

現在、当院では適切な管理・実施体制を整え、安全に治療を提供できるよう準備を進めています。

患者さんが日々の生活の中で感じている「動かしにくさ」や「つらさ」に寄り添い、一人ひとりにとってより良い医療を提供できるよう、スタッフ一同、これからも学びを重ねてまいります。

